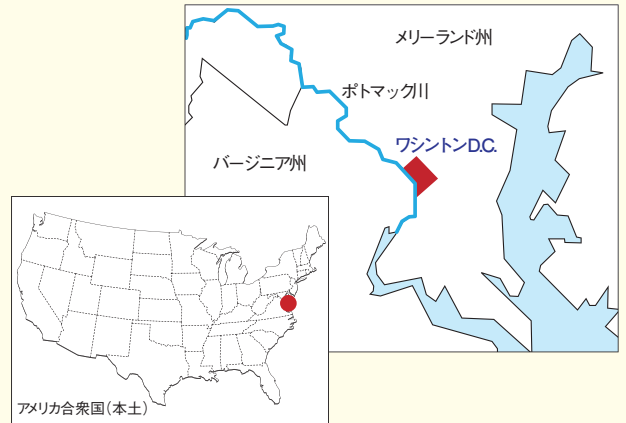




from Washington, D.C.



## 季節の記憶——ワシントンD.C.から

桜の美しさで名高い春も束の間、米国の首都ワシントンD.C.では、5月の声を聞く頃には夏日が続くようになり、7月4日の独立記念日過ぎには猛暑となり夏休みシーズンを迎えます。地下鉄や主要道路から通勤者の姿が減るのもこの頃です。

一説によると、この国に強固な官僚制が根付くことを嫌った初代大統領ワシントンがあえて気候の良くない地を首都に定めたとのこと。当時から避暑に出かけることは広く行われていたようですが、建国から200年以上が経過した現在でも、この時期の中央駅や空港周辺はワシントンD.C.から各地に旅立つ人々で賑わっています。それと入れ替わるように、一回りするだけでも一週間はかかると言われるスミソニアン博物館や、ホワイトハウスなど市内中心部に点在する数多くの歴史的建造物を見学するために、世界各地から多くの人々がワシントンD.C.を訪れます。

ワシントンD.C.への通勤者の多くは、近年家賃高騰の著しい市内を避け、隣接するメリーランド州、バ



ワシントンD.C.のシンボル、ワシントン記念塔

ージニア州に居住しています。そして当地に居住してみると、南北戦争時に敵味方に分かれた間柄に象徴されるように、隣同士のこの2つの州の文化や考え方の違いが感じられます。例えば、両州では銃規制に関する見方が大きく異なり、こうした話題はワシントンD.C.周辺に居住する人々の間で議論になることもしばしばです。メリーランドの黒土、バージニアの赤土など土の色も異なるほか、メリーランド州以北では植生に針葉樹が混ざり始めるなど、両州の境界であるポトマック川を挟んで風土にも違いがみられるのも興味深いところです。

ワシントンD.C.は地理的にまさに南北の要としての位置にあり、この地に長く住むほどに、猛暑の中にあってもこの場所に首都を建設することによって建国時すでに芽を出し始めていた南北間対立の融和を図ろうとしたワシントン大統領の思いが伝わってくるように感じられます。

(国際通貨基金<International Monetary Fund>  
本部、ワシントンD.C.)



スミソニアン博物館群の一つ「ナショナルギャラリー」。入料は無料。

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。